



2017年度 天文資料

平成29年度 第11号 (2月号)

平成30年 2月 2日

発行：佐世保市少年科学館

佐世保市少年科学館



木星が明け方南の空で観望の好期に、土星や火星も見える

去年の夏以来、姿を見る機会の少なかった木星が、2月の月上旬は、太陽の西側に大きく離れ、明け方に観望の好期となります。木星の光度は**-2.0等級**、金星の次に明るい天体です。また、東隣には今年7月に大接近する火星が**1.1等級**の明るさで、さらに東の方の低空には土星が**0.4等級**の明るさで輝いています。少し早起きして南東の空を見ると、華やかな光景が見られます。また、2月の前半には、近くに月も輝いており花を添えてくれます。今回は、明け方に見える惑星について取り上げます。



木星(「星きらり」で撮影)

月上旬は3惑星と月が接近

今年の7月31日に15年ぶりに地球に大接近する火星が、今明け方東の空で見えやすくなっています。火星のやや西には木星が、そして少し東には土星が輝いていて、**3つの明るい惑星を同時に見る**ことができます。2月の月上旬から中旬にかけては、月が近くを通り、8日には木星に、9日には火星に接近します。また、今の時期は、火星がさそり座の1等星アンタレスに接近しており、お互いにその赤さを競い合っているように見えます。



3つの惑星の競演は、望遠鏡がなくても、十分にその華やかさ、美しさを体感することができるでしょう。

※:今の時期の火星の明るさは1.1等級ですが、7月の大接近の時は-2.8等級まで明るくなります。

金星が宵の明星に

太陽、月の次に明るい金星は、ここ最近では肉眼ではなかなかお目にかかれませんが、2月の末ごろから、夕方西の空で見えるようになり、いよいよ宵の明星の登場となります。金星の今の明るさは**-3.9等級**夕方日の入り後、空がまだ明るいうちに見えてきた星があつたら、それはまちがいない金星です。この金星、今年10月中旬には、太陽の前に来て見えなくなりますが、9月までは、夕方西の空で美しく輝くでしょう。

3月4日には、この金星のすぐ近くに水星がやってきます。水星の明るさは**0.4等級**ですが、日の入り後は空が明るく、肉眼での観察は無理と思われれます。また、18時40分(日の入り後約20分)の2つの惑星の高度が約**7.7°**なので、西が開けた場所

で見ないと見えません。そのような場所で、双眼鏡を使って、金星を目印にして水星を見つけてみましょう。

